

学校だより

令和7年12月4日



目指す学校像

生徒一人一人の力が伸びる学校

新座市立第三中学校

〒352-0015 新座市池田 1-1-1

TEL (048) 479-4052 FAX 482-0133

## 「多様性」と「共生」

教頭 須藤 恵介

三中校門から校舎にかけてのサンロードを映えさせるイチョウの葉も緑から鮮やかな黄色へ、そして落葉が始まっています。また、銀杏もほぼ落ち、季節の移り変わりを実感しているところです。今年も残すところ1カ月を切りました。

さて、11月に日本で初開催された国際大会「東京2025デフリンピック」には、81か国、約3000人のアスリートが参加し、各会場で28万人の観客が詰めかけるなど、盛り上がりを見せました。日本は、51個（金16 銀12 動23）のメダルを獲得しました。私自身これまで馴染みがなく、今回デフリンピックについて、調べてみました。

「デフリンピック」とは、デフ (Deaf) …英語で「耳がきこえない」という意味 + オリンピック を合わせた言葉で、国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」であり、国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) が主催し、第1回 (1924年) フランス・パリ大会から4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際スポーツ大会です。

競技ルールはオリンピックとほぼ同じですが、耳の聞こえない人のために様々な工夫がされました。国際手話やスタートを知らせるランプ、旗などを使い、ルールのほかに視覚による情報を提供することで競技が成立していることに感心しました。また、応援している側も視覚的に応援を伝える「サインエール」で会場を盛り上げていました。

競技上の勝負や技術だけでなく、互いに支え合い理解を深める姿に心を動かされました。今回の大会をきっかけに、「多様性」や「共生」の大切さについて考える機会となった方も多かったと思います。三中の皆さんにも、改めて日々の体育や部活動、そして体育祭に向けての取組等で培った、運動や人との関わり合いを通じた仲間の良さや努力を認め合い、学校生活に活かして欲しいと願います。次回大会は、2029年ギリシャのアテネ、冬季大会は、2027年オーストリアのインスブルックで開催される予定です。

## 生徒アンケート結果

学校評価に関して12月1日に「生徒アンケート」を実施しました。5つの項目について実施しました。今年度2回目の保護者アンケートを12月12日（金）～12月19日（金）の期間で実施します。生徒アンケートの結果も踏まえてご回答いただければと思います。ご協力の程よろしくお願いいたします。

単位 (%)	上段：昨年度の数値 下段：今回の数値 (回答 635名)	A よくあてはまる	B ややあてはまる	C あまりあてはまらない	D 全くあてはまらない	グラフ
1 先生たちは、一人一人の実態に応じた分かりやすい授業を行っている。	57.8	59.1 (375名)	38.6 (245名)	2.3 (15名)	0 (0名)	
2 「学びの共同体」を生かした授業により、学ぶ意欲や理解度が高まっている。	57.2	51.8 (329名)	41.6 (264名)	5.8 (37名)	0.8 (5名)	
3 学校は、悩みや困ったことがあったときに安心して相談できる人がいる場所だ。	63.2	54.0 (343名)	38.1 (242名)	6.0 (38名)	1.9 (12名)	
4 先生たちは、自分の能力や個性、努力を認め、伸ばそうとしている。	66.5	65.4 (415名)	33.1 (210名)	1.5 (10名)	0 (0名)	
5 避難訓練や安全に関する授業により、事故や災害が起こったときの正しい行動の仕方を理解している。	72.2	66.1 (420名)	32.4 (206名)	1.5 (9名)	0 (0名)	